

JISWA最先端勉強会 (2) レポート

産業保健師と産業ソーシャルワーク

概要

日時 2019年6月19日 19:00～

場所 産業ソーシャルワーカー協会

内容 産業保健師と産業ソーシャルワーカーの使命

項目 保健師という職業の現状と、産業ソーシャルワークとの共通点を軸に、今後の課題について意見交換いたしました。



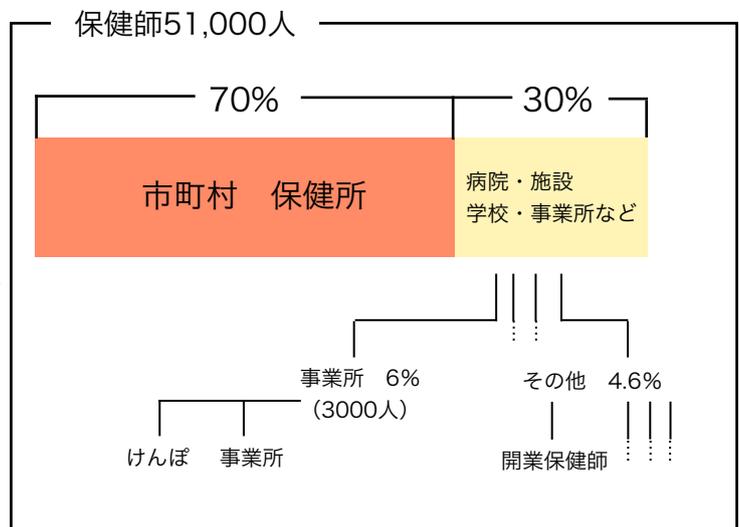
1. 産業保健師の概要

保健師の現状

- ・保健師助産師看護師法によって保健師という名で保健指導を行うことができる職種である。
- ・実際ほとんどの人が保健師に関わったことがない。
(参加者の中で保健師と仕事に関わったことのある人はあるが、産業保健師との関わりはほとんどない)
- ・保健師のやる気は千差万別である。

保健師数

- ・平成28年度時点で就労している保健師の数は全国で51,280人。
- 同じく看護師が114万人いる。これと比較して保健師就労数は少ない。
- ・保健師の7割が市区町村と保健所に勤めており、残り三割が病院、介護施設、学校、事業所など。中でも事業所で働く産業保健師は全体の6%である。
- ・業種発足時、保健婦と呼ばれていたこともあり、男性の割合が少なく、平成28年度時点で男性保健師は1130人。10年前は341人であった。



産業保健師の現状

- ・産業保健師は産業医のような設置義務はなく、健康診断後保健指導を保健師が行うのが望ましいという努力義務である。
- ・健康保険組合と事業所が就職先になる。
- ・健保の場合は家族も支援対象になることが多いが事業所では社員のみが対象になる。
- ・健康管理の内容や方法は企業独自で行なっているので働き方やサービス内容も異なる。
- ・健康管理の起点は健康診断であり、その評価も健康診断結果を活用することが多い。
- ・ストレスチェック 実施者に保健師が入ったことで、産業保健師が認知されるようになってきた。
- ・企業によっては健康診断の事後処理だけを頼むところ、または保健師を置いていけばよしとしているところもある。
- ・健康管理は本来自身で行うものであり、それを支援する面と会社の行う安全配慮義務のお手伝いを行う。
- ・疾病を持っている人へのアプローチのみではなく、健康な人が健康を維持できるように関わる（ポピュレーションアプローチ）面もある。

労働安全衛生法

- ・労働安全衛生の基本は3管理で、それぞれ以下の通りである。
- | | |
|---------------|------------------|
| 作業環境管理 | 安全な環境で働けている。 |
| 作業管理 | 作業手順が安全である。 |
| 健康管理 | 働く人自身が心身共に健康である。 |

開業保健師

- ・産業保健分野で中小企業を支援するのに有効な存在である。
- ・産業衛生学会や産業精神衛生学会なので開業保健師が少しずつ話題に上るようになってきた。
- ・増えつつあるが実数は把握できていない。200名は超えていると思われる。

2,産業ソーシャルワーカーの定義

目的

- ・産業ソーシャルワーカーは、働く個人が抱える多様で複雑な問題に向き合い、関係者と連携しながら解決に導いていくことでトラブルを未然に防ぎ、一人ひとりの仕事と生活の調和を実現し、企業の生産性向上に寄与する専門家です。
- ・向き合うのは働く個人であり、必ずしも企業に属している存在でなくてはならないわけではない。
- ・カウンセラーのように心の中にある答えを見つけるのではなく、抱えている問題を解決する手段を伝える
- ・問題に対する第一歩を踏み出させることが重要です。

言葉の意味	働く個人	雇用されている人に限らず、経営者や自営業も含めた全ての働く人を対象とする。産業ソーシャルワーカーは働く個人への支援を主体とする。
	多様で複雑	個人が抱える悩みはプライベートから仕事まで幅広く、幾つもの要因が複雑に絡み合っている。表出している悩みが必ずしも本質的な問題とは限らない。
	問題	働く個人が抱える問題はプライベートの問題だけでなく仕事のことにも含まれる。例えば、病気やストレス、育児や介護の問題、金銭問題、公私における人間関係、職業キャリアに関することなどを指す。
	向き合う	困難を抱えて働く個人に寄り添うとともに、困難を解決する道を日常的に研究し続ける。
	関係者	産業ソーシャルワーカー相互および産業医等の関係する専門職に加え、企業内の経営者、管理職、人事を含む。
	連携	関係者間の話し合いや必要に応じた専門性の高い分野への接続を通じ、相乗効果による質の高い対応を可能とする。
	解決	話しを聞くだけでなく、問題を軽減していくための方法を提示し考え方や行動の変容につなげていく。
	トラブルを未然に防ぐ	早期からの介入により、メンタル疾患発症や離職、事件事故などのトラブルへの予防効果を高める。
	仕事と生活の調和	いわゆるワーク・ライフ・バランス。やりがいや充実感を持ち仕事上の責任を果たしながら個人の時間を持てる健康で豊かな生活を指す。
	企業の生産性向上に寄与	産業ソーシャルワーカーは経済的命題を持つ。働く個人の困難解決には企業のコミットが不可欠であり、生産性向上に貢献することで企業と契約し個人への支援をする。

3,産業ソーシャルワーカーと産業保健師の類似点、相違点

類似点

- ・働く人の支援をしていくという点
- ・働く人の意思を尊重しつつ支援する
- ・各専門職のコーディネーター役になる

相違点

- ・産業保健師はカウンセリングも行う
- ・人事・総務の人への働きかけ、相談も行う
- ・起点が健康診断である
- ・労働衛生の定義、WHOの提唱する健康を目指す



労働衛生の定義

ILO/WHO（国際労働機関／世界保健機関）の合同委員会合同ガイドライン（1995年）

<産業保健の目的>

- ①職業に起因する健康障害を予防する
- ②健康と労働の調和を図る
- ③健康および労働能力の保持増進を図る
- ④安全と健康に関して、好ましい風土を醸成し、生産を高めることとなるような作業組織、労働文化を発展させる

WHOの健康の定義

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること（日本WHO協会訳）

その他質疑応答

開業保健師として仕事を得るためにはどうしたらいいか

- ・行政、病院経験のみの保健師が多いので3年は企業での経験が必要と考える。

産業保健で成功している例を教えてください。

- ・産業保健のみで成功するのではなく、経営者、人事担当者などの協力が必要で、産業保健スタッフのみで社員の健康管理ができるものでないのが、ここが、ということはいえないと思います。

生まれてからの健康管理情報を共有できないのだろうか。

- ・個人情報保護や健康維持のための法律が年代ごとに縦割りなことが、情報共有の機会を阻害していると思われる

産業保健師として産業ソーシャルワーカーへの期待することは？

- ・産業保健に興味を持つ保健師は増えているが、病院勤務をしている保健師は、病気を持たない人への対応が苦手になるので、健康に働く人について知ってもらうためにも、産業ソーシャルワーカーの勉強をして欲しいと考えています。働く人の生の声を聞けるということはとても価値があることで今後も一緒に学ばせてもらいたい。

5,次回お知らせ

産業ソーシャルワーカー協会 最先端セミナー2019 第3回「発達障害グレーゾーンのマネジメント(仮)」

- ・ 講師：浜口伝博（産業医、産業医科大学産業衛生教授）
- ・ 日時：2019年7月17日（水） 19:00～20:30
- ・ 場所：産業ソーシャルワーカー協会事務所（台東区花川戸1-3-6-203 地下鉄銀座線浅草駅徒歩2分）
- ・ 定員：15名(定員に限りがありますので、お早めにお申し込みください)
- ・ 参加費：会員:無料、非会員:1,000円（当日入会は参加費無料）
- ・ 申込方法：下記「セミナー申込みフォーム」に必要事項を記載してください。
- ・ 参加可否：参加可否については申込後、こちらから連絡いたします。

現在参加受付中です。奮ってご応募ください。